

# 地力回復・芝生再生に

「芝を元気にしたいなら、土を元気にすりゃあええ。」

## 養土工

芝の中に有機質を入れる技術

### ■悪臭や衣服への付着が少ない

有機質資材を完全に土中に挿入し蓋をすることで、従来、有機質肥料の施用で問題となっていた悪臭や衣服への付着をなくしました。

### ■表面排水の改善とスライジング効果

タテに溝を切り込むことにより、芝生の根圏に対して酸素や水を供給するエアレーション作用があります。特に土壌固結した芝地には最も有効な回復手段といえます。

### ■掘りあげた土を目土として

ディスクで掘上げた土を目土として周囲に敷きならすことで、目土と同等の効果があります。この目土効果に加え、固結状態の芝生がとくに渴望していると思われる有機質の肥効が加えられることにより、より有効な養生環境がつくられます。

### ■有機質にしかできない地力回復効果

発酵ケイフンや汚泥コンポストなどの有機質養土には速効性、遅効性、超遅効性など様々な形の窒素が5%近く含まれているだけでなく、リン酸、カリ、微量元素なども豊富に含まれています。これが有機質独特の地力増進的肥効となるのです。

### ■完全に土中に入るの、流出しない

また、養土工では、土壌中に有機質資材を挿入し、土の蓋をするため、降雨や散水などによってこれらが流出、流亡することがなく、その場所で固結緩和の働きを努めつつ、100%が植物によって消費・分解されるわけで、無駄なく長期間肥効を維持します。従って、化成肥料の使用量を大幅に削減することが可能になります。

### ■有効菌を直接ルートゾーンへ

有機質養土として使用する発酵家畜糞や生ゴミ堆肥、汚泥コンポストの中には多量の放線菌が含まれており、これが芝生の病原菌(糸状菌)に拮抗することは、芝草学会その他に複数論文などで発表されていますが、これを直接機械で土壌中に入れ込むことは、大量の生きた放線菌を活用することとなり、病害予防として非常に有効です。

通常、芝生は植付前に堆肥などの有機質資材を混入し、土壌改良が行われます。しかしその後は肥料分補給はほとんどが化成肥料の表面散布だけで済まされ、芝地造成後、何年経過しても有機質の堆肥などを施用されることはまれです。

また、芝生への施肥方法は、芝生面への表面散布が一般的です。これは散布された肥料が降雨、散水によって溶け出し、土壌中に浸透することで芝生の根に吸収されるというものです。しかし、ケイフン、牛糞堆肥、コンポストなどの形状のものは、表面に層として残り、また悪臭や衣服などへの付着の問題からあまり施用されていません。校庭や競技場など固結の激しいところは、このような有機質の肥料材の施用がとくに必要とされているにもかかわらず、それが前述のような理由から施用できず、生育に必要な成分が欠乏しがちで、いわゆる地力(土壌の緩衝能)がなくなり、固結もすすみ、次第に芝生の成長や回復力が衰えて行くというのが実情です。

新開発されたゾイシアン養土工は、筋状に連続的に溝を切り、その溝(土壌中)に有機質資材や肥料(有機質養土)を押し入れ、さらに、溝を切る際に掘り上げた土を目土としてならし、蓋をすることで直接根圏に有機質を供給する画期的な新技術です。



■有機質資材の挿入



■施工 (8月27日)



■施工後 (同年9月15日)

開発・施工

ゾイシアンジャパン株式会社

〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田275

電話(0847) 82-2126 FAX(0847) 82-2021

E-mail:webmaster@zoysian.co.jp

http://www.zoysian.co.jp/